

中国人日本語学習者と日本語母語話者の接触場面における話題転換 その(1) 友人関係の下で中国人日本語学習者による話題転換に着目して

著者	許 家瑶
著者所属(日)	厦門大学嘉庚学院日本語学科
雑誌名	平安女学院大学研究年報
巻	16
ページ	64-73
発行年	2016-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1475/00001324/

中国人日本語学習者と 日本語母語話者の接触場面における話題転換 その (1)

— 友人関係の下で中国人日本語学習者による話題転換に着目して —

許 家瑶*

要 旨

本研究は友人関係の接触場面において中国人日本語学習者と日本語母語話者との会話の中で中国人日本語学習者による話題転換について考察したものである。話題の内容と会話の内容との関連性及び会話参加者の相互行為といった二つの視点から、中国人日本語学習者が話題転換をするときのパターンを明らかにしたい。

〔キーワード〕 話題転換 接触場面 日本語会話

1. はじめに

私たちは会話の際に意識的にまた無意識的に話題を展開したり、転換したりしている。近年、日本語学習者の話題転換に関する研究はされている（楊 2005、楊 2009、中井 2002、木暮 2002）が親しい人間関係を持つ学習者の話題転換については、まだ十分研究されていない。学習者と母語話者は友人関係にあるとはいえ、円滑なコミュニケーションを行うことは容易なことではないと考えられる。初対面の接触場面だけではなく、友人関係の接触場面においても話題転換がスムーズに行われることが良好なコミュニケーションの成立に関わってくる。また、話題転換のパターンと方略について、いくつかの先行研究において考察されているが、実際の会話における話題転換に対しては必ずしも十分に検証されているとは言えず、新たな定義が必要であると考えられる。

そこで、本研究では、友人関係の接触場面において中国人日本語学習者と日本語母語話者との会話の中で中国人学習者による話題転換について考察を行う。

2. 先行研究における話題転換および問題点

話題転換のパターンに関する研究はこれまで主に二つの視点から考察されている。一つは話題の内容と会話の内容との関連性という視点、すなわち話題はどのように会話の内容や会話の場面とつながっているかについてである。

話題の内容と会話の内容の関連性から、話題転換のパターンを大きく三つに分類されている（南 1981；村上・熊取谷 1995；Brinton & Fujiki 1984）。先行話題で言及された事柄から話題が選ばれ、後続話題が導入される派生型と、隣接話題の間では一見新出型に見えるがそれ以前の話題で語られた内容が再び後続話題として導入される再生型と、先行話題の中で全く言及されていない内容が後続話題になる新出型の三つである。

*：中国厦門大学嘉庚学院日本語学科

二つ目の視点は会話参加者の相互行為の特徴についてである。West & Garcia (1988)はこの点について、以下のように定義している。

- 1) 協働的転換 複数の参加者が相互に境界づけ活動をした後に転換が行われるもの。
- 2) 断絶的転換 二つ以上の一秒以上の沈黙または二つ以上の最小限応答の後に転換が行われるもの。
- 3) 一方的転換 上記境界づけ活動や、沈黙や最小限応答などがなくまま転換が行われるもの。

楊 (2009) は初対面の中日接触場面における話題終了について、話題終了行動の生起頻度と話題終了のプロセスのパターンを分析し、接触場面の話題終了の特徴を明らかにし、接触場面全体では漸次的終了と即時的終了という傾向があることを明らかにしている。

楊 (2009) は先行話題の終了部あるいは終了のパターンだけを観察しているが、それだけで話題転換のプロセスを明らかにできるのであろうか。実際の会話データを見ると、話題転換は部分的なものではなく、より大きな話題から変化させる動的な過程が存在すると考えられる。また、村上・熊取谷 (1995) は友人関係の日本語母語話者の会話における隣接話題の間の連結について考察しているが、そこには以下のような問題点があると思われる。一つは継続型と断続型の区別は沈黙であるとされているが、先行話題の終了プロセスにどのような違いが見られるかである。また、割り込み型について、3人が会話する場合に関しては、はっきりと確認することができたが、2人の場合はどのような基準で割り込みとするかは不明である。さらに、話題の開始部と終了部の定義は、現時点ではまだあいまいなままであると思われる。そこで研究課題は以下のようなものである。

- ① 中国人日本語学習者による話題転換にはどのようなパターンがあるか。

3. 分析方法

3.1 会話データの収集

会話資料収録に協力してくれたのは、Z大学のあるコースの中国人日本語学習者と同コースの日本語母語話者、合計8名である。人間関係は新学期が始まり、知り合って3ヶ月ほどである。

NNS×NS (3組)	調査時期	総文字化分数	NS×NS (3組)	調査時期	総文字化分数
CF1×JF1	2009・6・11	32分	01×02 (JF)	2010・6・29	25分
CF2×JM2	2009・6・11	38分	02×03 (JF)	2010・6・29	25分
CF3×JM2	2009・6・16	22分	03×01 (JF)	2010・7・01	25分

録音された音声・文字化された資料は、個人や団体名が特定されないように匿名性を守り、研究目的以外には一切使用しないということを前提に受諾していただき、2009年夏ごろと2010年夏ごろに計2回6つの会話を収録することができた。会話協力者には収録特別な内容の指示を与えず、自由な会話を行うように指示した。それぞれ25分ほどの会話を収録した。

3.2 話題転換に関する定義と会話資料

本研究では会話参加者の相互行為を考察するため、話題を「ある談話の塊で言及された事柄」と定義する。さらに、ひとつの話題には必ず二つの特徴があると考えられる。ひとつは参加者のやり取りを通して作り上げられていること。第二は同じ事柄をめぐる話を展開していることである。(会話例1)

1. CF1 私は天然パーマだから、
2. JF1 え [↑] [声が急に大きく] そうなの？
3. CF1 そう。
4. JF1 へえ：
5. CF1 みえ、見えなかったの？

6. それは曲がってるでしょう？
7. JF1 え：、そう？
8. でも、まっすぐのほうじゃない？
9. ストレートパーマかけてる？
10. CF1 あん、ストレートと、
11. JF1 あ、そうなんだ。
12. CF1 でも、この部分は、
13. JF1 うん。
14. CF1 新しく出てくる、
15. JF1 うん、うん。
16. CF1 髪だから、ちょっと雨の日は、(.) 曲がくなる。
17. JF1 あ、そうなんだ！
18. hahahaha
19. CF1 うん、うん、うん。
20. JF1 へえ：
21. 知らなかった：
22. CF1 だから、いつもあま、雨の日に帽子をかける。
23. JF1 あ：
24. なるほどね。
25. [hahahaha]
26. CF1 [hahahaha]

1 行目から 26 行目までは CF1 の髪が天然パーマであるという事柄について、二人の会話参加者が語っていることが分かる。

話題開始部と終了部の判定は楊虹（2009）の研究を参考に、筆者ともう一人の日本語母語話者とが行った。

話題転換：先行研究における焦点とは異なる内容を会話の話題として確立させる一連の言語行動であると規定し、スムーズな話題転換とは、会話の参加者が先行話題を終了することをお互いに確認でき、合意した上で、新しい話題を導入するものである。

話題終了行動：先行話題を終了させる言語・非言語行動である。

3.3 会話の文字化方法

本研究では会話分析のシーケンス記述方法を用いるため、本研究の会話の文字化方法は、会話分析の分野において広く使われている Jefferson, G. (2004) によって開発された転写システムに基づいている。以下は、会話資料のトランスクリプトに使用した記号である。論文に挙げた会話例は、作業協力者のネイティブチェックを受けている。

.	語尾の音下がって区切りがついたことはピリオドで示される
,	音が少し下がって弾みがついていることはコンマで示される
?	語尾の音が上がっているときには疑問符で示される
[複数の参加者の発する音声が重なり始めている時点は、右開きの角括弧によって示される
]	重なるの終わりは左開きの角括弧によって示される
=	二つの発話が途切れなく密着していることは、その間にイコールによって示される
()	聞き取り不可能な箇所は、() で示される。空白の大きさは、聞き取り不可能な音声の相対的な長さに対応している

(m.n)	音声途絶えている状態があるときは、その秒数がほぼ 0.2 秒ごとに () 内に示される
(.)	0.2 秒以下の短い間合いは、() 内にピリオドを打った記号によって示される
言葉 :	直前の音が伸ばされていることは、コロンで示される。コロンの数は引き伸ばしの相対的な長さに対応している
h	呼気音は h で示される。
.h	吸気音は .h で示される。h の数は音の相対的な長さに対応している
ha/he/hi	笑いを表すときに用いる
言葉	音の強さは下線によって示される
言葉	音が大きいことは、斜体を用いることで示される
° °	音が小さいことは、該当箇所が ° で囲まれることにより示される
> <	発話のスピードが目立って速くなる部分は、左開きの不等号と右開きの不等号で囲まれる
< >	発話のスピードが目立って遅くなる部分は、右開きの不等号と左開きの不等号で囲まれる

3.4 分析方法

本研究では「話題転換のパターン」に着目して分析を行う。中国人日本語学習者が話題転換をするときにどのような特徴があるかについて考察する。

なお「話題転換のパターン」については、二つの側面から考察する。一つは話題の内容と会話の内容との関連性という視点である。もう一つは会話参加者の相互行為の特徴である。これらの二つの側面から中国人日本語学習者が話題転換をするとき、どのようなパターンがみられるかについて考察する。

3.5 分析対象および分析課題

話題転換とは、話題の終了部と後続話題の開始部が両方とも起き、ひとつの話題転換が行われることであると考えられる。

話題転換のプロセス

例 :

1. CF1 そうですね。
2. 今でも、世界でも、平和と言わないね。
3. JF1 平和と言わないね。
4. CF1 うん。
5. (4.08)
6. JF1 いまわのきよしろう [忌野清志郎] って知ってる？日本の歌手なんだけど。
7. CF1 ふん :

話題終了部

話題開始部

本研究は、接触場面において中国人日本語学習者と日本語母語話者の会話における話題転換に焦点をあてて、学習者による「話題転換のパターン」研究対象とし、次の点を分析課題とする。

- ①中国人日本語学習者による話題転換はどうかされているか。

4. データ分析

以下の問いに基づき、中国人日本語学習者による「話題転換のパターン」について考察する。

- 1) 中国人日本語学習者が話題転換をするときに、話題と会話の内容の関連性という視点からどのようなパターンが見られるか。
- 2) 会話参加者の相互行為という観点から、中国人日本語学習者が話題転換をするときに、どのようなパターンが見られるか。

4.1 話題転換のパターンにおける中国人日本語学習者による話題転換

話題転換のパターンに関する研究には、主に二つの方向性がある。一つは話題と会話の内容との関連性である。もう一つは会話参加者による相互行為がどうなされているかということである。これら二つの分析方向を利用して、それぞれを指標にし、以下具体的な会話例を示しながら、中国人日本語学習者による話題転換のパターンとその特徴を考察する。

4.1.1 話題の内容と会話内容の関連性

会話断片 (4.01)

会話断片 (4.01) において、三つの話題について、中国人日本語学習者 CF1 と日本語母語話者 JF1 とが以下の話題について語っている。ひとつの話題は髪型について、中国人日本語学習者 CF1 によって、導入された話題は CF1 の髪が天然パーマという事柄、続きの話題は来週の発表について、また CF1 による話題転換である。注目したいのは中国人日本語学習者による後続話題の内容（天然パーマ）と先行話題（髪型）の内容の関連性である。

1. CF1 私は、日本に来てから、あまり切ってないですね。
2. ただ、かっ、かた？髪型。
3. JF1 うん。
4. CF1 ちょっと切って、
5. JF1 うんうん。
6. CF1 長さはあまり短く、(.) しなかった。
7. JF1 そうだね。
8. しかもね、これから夏になるからさ：
9. CF1 うん。
10. JF1 暑いとさ：こう、しほりたくなるじゃん [↑]
11. CF1 うん：そうですね：
12. JF1 お団子とかしたいじゃん [↑]
13. CF1 私は天然パーマだから、
14. JF1 え [↑] [声が急に大きく] そうなの？
15. CF1 そう。
16. JF1 へえ：：
17. CF1 みえ、見えなかったの？
18. それは曲がってるでしょう？
19. JF1 え：、そう？
20. でも、まっすぐのほうじゃない？
21. ストレートパーマかけてる？
22. CF1 あん、ストレートと、
23. JF1 あ、そうなんだ。
24. CF1 でも、この部分は、
25. JF1 うん。
26. CF1 新しく出てくる、
27. JF1 うん、うん。¹⁾
28. CF1 髪だから、ちょっと雨の日は、(.) 曲がくなる。
29. JF1 あ、そうなんだ！
30. hahahaha

31. CF1 うん、うん、うん。
 32. JF1 へえ：
 33. 知らなかった：
 34. CF1 だから、いつもあま、雨の日に帽子をかける。
 35. JF1 あ：
 36. なるほどね。
 37. [hahahaha]
 38. CF1 [hahahaha]
 39. CF1 そう。
 40. JF1 さん、あした、発表がある？
 41. その M 先生の授業。
 42. JF1 あしたはない。

この断片を見ると、いくつかの事柄を観察することができる。

第一に、最初の部分 (1-12) では、「髪型」について会話が行われている。続く部分 (13-38) では、13 行目にある「CF1 髪が天然パーマ」という話題へと転換し、それにもとづいて会話した。続く (39-42) では、「来週の発表」について、39 行目から 41 行目まで CF1 による話題転換が行われたことがわかる。

第二に、導入された話題と会話の内容の関連について、13 行目に注目したい。1 行目から 12 行目までは全部 CF1 の髪型という枠組について会話が行われている。13 行目にある CF1 の発話文「私は天然パーマだから、」によって、話題転換はした。12 行目まではすべて髪型に関して話しているが、突然 CF1 は自分の髪が天然パーマであるという話題に転換した。要するに、12 行目まではまだ話がつづくと思われたけれども、髪に関する大きい枠組の中で、13 行目に CF1 が突然話題を転換したことが分かる。

似たような例がほかの中国人日本語学習者のデータにおいても観察できる。

(4.02)

会話断片 (4.02) では、三つの話題が見られる。第一は 1 行目にある CF2 による話題で JM2 がタイに行ったことについての内容である。第二は CF2 による「経つ」変形についての話題である。三つ目は CF2 によって、JM2 がタイに行くきっかけについての内容である。ここでは、中国人日本語学習者による後続話題の内容（「経つ」変形）は先行話題の内容（JM2 がタイに行くこと）との関連性について考察する。

1. CF2 あの、JM2 さんは、いつタイに行きました？
 2. 何年前？
 3. JM2 僕はタイには一年間に 2 回とか、3 回とか、
 4. CF2 いつから？
 5. JM2 19 (.) 何だろうな、20 年ぐらい昔から、
 6. CF2 20 年もたっ
 7. (1.0)
 8. たった？経ちました？え？経った？経ちました？両方ともいい？
 9. (5.0)
 10. CF2 20、
 11. JM2 ん、経ちました、経ちました、経った、どちらでもいい。
 12. CF2 ん、ん。

13. JM2 ちょっと待って、経った、そうしたら、完了形だよね。
14. CF2 ん、ん。
15. もう 20 年、きっ、
16. JM2 た、要するに、それはモダリティでたぶん。
17. CF2 hehehehe
18. JM2 だけど、同じ同じ、hehehehe
19. CF2 えっ [↑] きっかけは何ですか。
20. JM2 学会。

導入話題の内容と会話の内容に関連して、8行目と19行目に注目したい。8行目で、CF2は先行話題JM2がタイに行くという内容を語っている最中に突然自ら話題を転換した。「たった？経ちました？え？経った？経ちました？両方ともいい？」を連続的に発話し、メタ言語に関する内容話題を変えている。

上記の二例のように、中国人日本語学習者が話題転換をするときには、導入した話題の内容が先行話題の内容と関連が全くないとはいえないが、会話の進行中に突然先行話題と異なる方向である話題を転換する傾向が見られる。

もう一例を見よう。

(4.03)

断片(4.03)において、中国人日本語学習者による後続話題(家に帰って何かをする)と先行話題(バナナケーキ)との関連性について考察する。

1. JF1 (笑いながら) なんかバナナとか、変色したら、いらぬ。
2. CF1 [hahahaha]
3. JF1 [hahahaha]
4. (3.0)
5. JF1 そろそろ30分だけど、いいのかな。
6. CF1 うんうん。
7. (4.0)
8. 普通は：家に帰ってから、なにかする？

会話例(4.03)では、1行目から4行目までは二人はバナナケーキの作り方について、会話を交わしている。4行目から7行目はそろそろ録音の締め切り時間になるという話題について、二人は短く語った。8行目にCF1によって、話題転換が行われた。CF1は4秒のポーズの後に、「普通は 一家に帰ってから、なにかする？」という発話をし、話題を導入した。

導入された話題と会話の内容の関連性については、話題転換を研究する研究者がそれぞれ話題転換のパターンを分類している。それぞれの研究者に共通しているところを取り上げてみると、以下のよな分類になる。(南1981; 村上・熊取谷1995; Brinton & Fujiki 1984)

派生型：先行トピックで言及された事柄からトピックが選ばれ、これが導入される場合である。

再生型：隣接トピックの間では一見新出型に見えるつながりが、実はそれ以前のトピックで語られた内容が再度後続トピックとして導入される場合をいう。

新出型：先行トピックの中で全く言及されていなかったことが後続トピックになる場合である。

これらの研究者たちが派生型と再生型に分けているけれども、実際にデータを分析してみると、派生型と再生型の区切りがはっきりしているとはいえないように思われる。たとえば、会話例(4.01)において、先行話題(1-12)が髪型で、後続話題(13-38)がCF1の髪が天然パーマという内容では、先行話題の中で「天然パーマ」について言及されておらず、それ以前の話題に語られた内容もなく、

先行研究で分類されている派生型と再生型とどちらでもないように見える。しかし、「髪型」の後に出てくる「天然パーマ」という後続話題と先行話題は両方ともに髪に関わっており、関連性があるとも考えられる。要するに、接触場面のデータを分析すると、後続話題と先行話題の内容から見ると、中国人日本語学習者が導入した続話題の内容は先行話題で語られた事柄そのものではないが、先行話題と関連があると見られる。そのため、先行研究に述べられた分類に入れられないことが分かる。

こうした例は先行研究に述べられているパターンには見られず、さらに、収録した接触場面のデータから見ると、中国人日本語学習者が導入した話題の内容は先行話題の内容と関連があつて、先行話題から想像できる範囲の内容になる傾向がある。そこで、本研究はメモリに一の中での連想 (association in memory) (Yabuuchi, 2002) という観点を参考にしながら、接触場面の会話データを改めて考察したい。

私たちが相手の発話を聞く際には、頭の中でさまざまなメモリーが活性化されている。これらのメモリーをベースに次の話題の発話を決める。連想には説明的な連想と自由連想という2種類があり、説明的連想は参加者の知識・情報のギャップを埋める。それに対し、自由連想は現在の話題と関連性が薄く、メタファー的な連想や、ポライトネスやマクロのテキストからの連想である。

上記の会話断片を連想という観点から見ると、断片 (4.01) において、JF1 が髪型について語っている際、中国人日本語学習者が髪という大きい範囲から、自分の髪は天然パーマであるという話題を導入したと見られる。断片 (4.02) において、先行話題はJM2 がいつタイに行くかという内容で、中国人日本語学習者が途中で「経つ」の変形という話題を提示した。一見すると、「経つ」の変形という内容とJM2 がいつタイに行くことという内容には関連がないと見られるけれども、実際に会話断片を見ると、タイに行ったのは今から20年も経つということについて語っているので、先行話題と薄い関連性があると考えられる。さらに、新しい話題の内容は先行話題を語っているとき、中国人日本語学習者が自分の日本語知識から思い出したと見られる。断片 (4.03) において、導入された話題は一見先行話題とは関連がないけれども、録音時点はすでに放課後なので、二人が録音に協力してからそれぞれの家に帰ると推測できるので、5行目にあるJF1の発話「そろそろ30分だけ、いいのかな。」の中での「そろそろ」の意味はそろそろ終わるとも、そろそろ家に帰れるとも考えられる。CF1がその「そろそろ」の意味を捕らえ、先行話題と関連がすこしあるけれども、新しい話題を導入したと考えられる。

上記のデータによって、接触場面での中国人日本語学習者による話題転換は連想という観点から見ると、中国人日本語学習者の自分の経験や知っている範囲から連想してくる話題が特徴的である。

5. 終わりに 中国人日本語学習者による話題転換

本稿は中国人日本語学習者による話題転換について、話題の内容と会話の内容との関連性と会話参加者の相互行為の特徴といった二つの視点から考察を行った。結論として、次の二点をあげることができる①中国人日本語学習者が話題転換をするときには、導入した話題の内容が先行話題の内容と関連が全くないとはいえないが、会話の進行中に突然先行話題と異なる方向である話題を転換する傾向がある。②接触場面での中国人日本語学習者による話題転換は連想という観点から見ると、中国人日本語学習者の自分の経験や知っている範囲から連想してくる話題が特徴である。今後はさらに、中国人日本語学習者による話題転換の方略を考察し、日本語母語話者の自由会話のデータを比較し、中国人日本語学習者による話題転換の実態を明らかにしたい。

注

1) 影をかける発話文は話題転換の時点だと見られる、下線をつける発話文は話者領域をあらわす

参考文献

- 小田切由香子 (1997) 「異文化間・男女間コミュニケーションにおける性差 — 会話開始における話題転換上の特徴」『横浜国立大学留学生センター紀要』第4号、pp.42-53
- 木暮律子 (2002) 「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』No. 5、pp.5-23
- 串田秀也 (1995) 「トピック性と修復活動 — 会話における「スムーズ」なトピック推移の — 形式をめぐって —」『大阪教育大学紀要 II 社会科学・生活科学』第44巻1号、pp.1-25
- 好井裕明、山田富秋、西坂仰編 (1999) 『会話分析への招待』世界思想社
- 中井陽子 (2003) 「初対面日本語会話の話題開始部／終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』Vol. 16、pp.71-95
- 中井陽子、大場美和子、土井真美 (2004) 「談話レベルでの会話教育における指導項目の提案：談話・会話分析的アプローチの観点から見た談話技能の項目」『世界の日本語教育日本語教育論集』vol. 14、pp.75
- 西坂仰 (1995) 「順番取りシステム再訪」『連載〈会話をフィールドにした男〉サクスのアイデア』『言語』第24巻
- 西坂仰 (2004) 「ちょっとしたことをすべて見逃してはいけない」AERA MOOK 『新版社会学がわかる』
- 村上恵、熊取谷哲夫 (1995) 「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』pp.101-111
- メイナード・K・泉子 (1987) 「日米会話におけるあいづち表現」『言語』第16巻11号、pp.88-92
- メイナード・K・泉子 (1993) 『会話分析』くろしお出版
- 楊虹 (2005) 「話題転換研究の概観 — タイプと方略を中心に —」『言語文化と日本語教育』2005年11月増刊特集号、pp.161-185
- 楊虹 (2005) 「日本語母語場面の会話に見られる話題開始表現」『人間文化論叢』Vol. 8、pp.327-336
- 楊虹 (2007) 「中日母語場面の話題転換の比較 — 話題終了のプロセスに着目して —」『世界の日本語教育・日本語教育論集』Vol. 17、pp.37-52
- 楊虹 (2009) 「中日接触場面における話題転換の研究」(博士論文) 未公刊
- 畠弘巳 (1988) 「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」『日本語学』第7巻3号、pp.100-117
- 南不二男 (1981) 「日常会話の話題の推移 — 松江テキストを資料として —」藤原与一先生古稀祝賀論集刊行委員会編『方言学論叢1 — 方言研究の推進 —』三省堂、南1997b再録：pp.307-331
- Atkinson, J. M., & Heritage, J. (Eds.) (1984) Structures of Social Action: Studies in Conversation Analysis. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brinton, B. & Fujiki, M. (1984) Development of topic manipulation skills in discourse, Journal of Speech and Hearing Research, 27, pp.350-358.
- Brown, G. and Yule, G. (1983) Discourse analysis New York: Cambridge University Press.
- Crow, B. (1983) Topic shifts in couples' conversations. In R. T. Craig & K. Tracy. (Eds.), (pp.136-156).
- Jefferson, G. (2004). Glossary of transcript symbols with an introduction. In G. H. Lerner (Ed.), (pp.13-31).
- Keenan, E. & Schieffelin, B. (1976) Topic as a discourse notion: A study of topic in the conversations of children and adults. In C. Li (Ed.), Subject and topic. New York: Academic Press, pp.335-384
- Reichman, R. (1978), Conversational Coherency. Cognitive Science, 2: pp.283-327.
- Sacks, Harvey, Emanuel A. Schegloff, Gail Jefferson (1978) 'A simplest systematics for the organization of turn taking for conversation'. J.N. Schenkein (ed.), Studies in the organization of conversational interaction. New

York: Academic Press: pp.7-55 (1974)

West Candace and Garcia Angela (1988) 'Conversational shift work: A study of topical transitions between women and men' *Social Problems*, 35, pp.551-573

Yabuuchi, A. (2002) Topic transition in casual conversation: An association model, *Semiotica*, 138, pp.235-258.

Yamada, H. (1989) American and Japanese topic management strategies in business Meeting. a doctoral dissertation, YUSHODO Dissertation Service Center.

(中国厦門大学嘉庚学院日本語科)

The Study of Structure of Conversational Topic Changing: Based on Data of the Japanese/Chinese who are in friendship

XU, Jiayao

The aim of this paper is to specify differences in the way of topic shifting by Chinese participants with Japanese participants in the Japanese contact situation. The data consist of three 20-minute spontaneous Japanese conversations recorded in Japan. The analysis focused upon topic shifting patterns and topic shifting strategies.

The results show that about topic shifting patterns, I cannot see the topic shifting patterns as been written. Chinese participants tend to make the topic change into the thing they always familiar to.